

日刊 勤労千葉

82, 12, 28
No. 1231

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五(六)・(公衆)四三三(三)二七二〇七

一年間をふりかえって

各支部長に 聞く 2

必ず勝つとの信念で貫いた一年

佐倉支部執行委員長 堀口太一

一年間をふり返り、勉強し、来年にむけてさらに頑張りたいと思います。一年間の皆様の御指導に感謝し、来年も宜しくお願いします。

「一人は万人のために、万人は一人のために」

木更津支部執行委員長 奥原良平

一年を振りかえって考えてみて、微力ながらも、自分なりに組合活動のなれたるか、一人は万人のために、万人は一人のためにということの重要さが身にしみたということでした。

印象に残っているのは団交における当局とのかけひき、そして支部長として支部組合員をまとめる大切さであったと思います。

これからも支部長として得たものを人生に生かしていきたいと考えます。

昨年定期大会以来、政治の反動化、国鉄当局のさまざまな労働運動破壊Ⅱ職場既得権剥奪が進行する中、佐倉支部は皆さんと共に闘い抜き、一つ一つ打ち破って前進をちとって参りました。組織的にも一三〇名を突破するとともに、この一年間は佐倉支部にとって貴重な闘いでもありました。

支部一丸となつての闘う体制づくりで前進

蘇我支部執行委員長 丸島茂三郎

4月に新執行部が発足してから、9カ月が過ぎようとしています。

この間、4月の82年春闘を支部総動員で取り組みました。結果は惨敗でしたが闘う体制作りが構築できたことは大変意義がありました。つづいて、6・5大集会に向けて支部全員による街頭ピラ配りを終え、当集会の大成功に執行部一同意を強くしました。また、裁判闘争、その他、種々の闘争を真しに取り組み活動してきました。

激動する83年に向け「一人ひとりが活動家となつて闘い抜こう」をスローガンに更に前進した闘いができるよう、蘇我支部は一致団結して新年も闘います。他支部の皆さん共に頑張りますよ!

動労千葉は種々な攻撃を一つ一つ粉砕し勝利してきました。ここに私達の闘いの正義性をみてとることが出来ます。「五七・三検修合理化」や「五七・一ダイ改」等、私達の身近な闘いに一致団結して闘って参りました。また現在「検修下廻り合理化」という大きな火の粉がふりかかっています。検修職場の組合員は、連日にわたり技術論争に打ち勝つべく、職場討議や勉強会を重ねております。

厳しい国鉄攻撃は、逆に我々を鍛えた

幕張支部執行委員長 白井忠博

赤い表紙の組合員手帳も残すところ一ページ、ひっくり返してみると、今年は大変な出来事の連続でした。

「ヤミ・カラ」キャンペーンで始まった一九八二年、職場では早退だの、風呂に入るのが早いだの、シノゴノと言われ、あげくはバスは取り上げ、はてはポーターは人並みにももらえず、まったく国鉄百年来の凶作の年でした。……しかし、これがそもそも「正常なる国鉄の常識です」というご時世にさせよう、なろうと

しているのだから、我々もだまっていたわけにはいかない。華々しく開業した東北・上越新幹線、これも結局は国鉄赤字の大モトになり、正月も休まず、夜も昼

も電車を動かしている我々職員が多いから赤字!!とんでもないウンだ! そんな事ぐらい小学生の娘でも知っている! そんな怒りのやり場のないような一年でした。

超反動内閣が出来ようが、国鉄の労務政策がタカ派路線になろうが、全国にはりめぐらされた線路末端まで、生産点で働く我々労働者が主役だということを当局に知らしめ、我々も自覚しなければならぬ。

この一年間の経験は、労使関係とは何か、を私達に教えてくれた反面教師としてとらえ、せまりくる明日の嵐を我身で受けとめ、はねかえしていこう。